

2021年度 二松学舎大学 日本漢学研究センター主催公開講座

2021年度日本漢学研究センターが主催する公開講座は、日本漢学研究又は漢文文献の調査・整理に関心を持つ若手研究者を育成する講座です。受講対象者は、学内外の大学院生及び院生レベルの若者を主とし、他に一般社会人等にも、演習・講義等を通じて必要な基礎知識と技能を身につけていただくことを目的としています。

◆受講料： 無料 ◆対象者： 学生、研究者、教員、図書館員及び一般の方 ◆会場： 本学九段校舎

◆応募締切等： 4月5日 [受講許可の選考を行います]

◆申込・問い合わせ先： 二松学舎大学 東アジア学術総合研究所 日本漢学研究センター 〒102-0074 東京都千代田区九段南2-4-14
Tel: 03-3261-3535 Fax: 03-3261-3536 e-mail: kangaku@nishogakusha-u.ac.jp URL: https://www.nishogakusha-u.ac.jp/eastasia/

講座名		内 容	講 師	所 属	曜日・時限	募集人員
演習講座	1	筆談文献読解講座 筆談は漢字文化圏における文化交流の中で、ユニークな役割を果たしたことで、注目の的となっている。本講義は三十年間日本に在住して、激動の明治期を目の当たりにした、浙江寧波の文人王治本が日本人との筆談(漢文)を取り上げる。筆談史料の内容と書写の特徴に習熟すると同時に、文献整理や読解力を高め、明治時代における日中交流の実態に迫りたい。	王 宝平	本学文学部 教授	金曜日 6時限	募集を締め 切りました
	2	『天道溯原』解読 日本や中国の近代化は、好むと好まざるとに拘わらず、西欧化という道をたどらざるを得なかったが、輸入しようとする西欧近代文明には日本や中国が禁教としてきたキリスト教が必ず付随していた。これを排除するのか、あるいは受容するのか。逆に言えば、宣教師たちはどのようにアジアにキリスト教を再度もたらそうとしたのだろうか。新島襄や山本覚馬も読んだという『天道溯原』を解読しながら、アジア近代化とキリスト教再渡来の影響を考えてみたい。	中村 聡	東アジア学術 総合研究所 客員研究員	木曜日 3時限 ※	募集を締め 切りました

※『天道溯原』解読講座については、オンデマンドによる講義となります。

- 注) 1. 開講時間 3時限：13:30～15:00 6時限：18:50～20:20
2. 前期・後期 前期：4/12～7/30 後期：9/13～1/22
3. 開講日等 新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、変更する場合があります。